

令和2年度 再々評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	都市計画道路 枚方藤阪線 街路事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路整備課 建設グループ（連絡先 06-6944-9276）	
事業箇所	枚方市西禁野 2 丁目～禁野本町 1 丁目	
再々評価理由	再評価実施後 5 年間を経過した時点で継続中	
事業目的	本路線は、京阪枚方市駅へのアクセス道路であり、自動車及び歩行者の交通量が多く、渋滞が発生するとともに、現道の一般府道杉田口禁野線の歩道等が未整備であるため、危険な状態である。過去に整備した区間に引続き、本区間の自転車歩行者道の設置及び交差点改良を行うことで歩行者、自転車等の安全を確保するとともに、交通渋滞を緩和することを目的とする。	
事業内容	道路築造 事業延長: 0.6 km 道路幅員: 16.0m 車道: 2車線 [3.0m×2] 自転車歩行者道: 両側 [3.5m×2]	
事業費 () 内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費: 約 30 億円 (約 27 億円) [国: 16.5 億円、府: 13.3 億円] (内訳) 調査費等 約 1 億円 (約 1 億円) 用地費 約 19 億円 (約 18 億円) 工事費 約 10 億円 (約 8 億円)	【工事費の内訳】 街路築造工 約 8.4 億円 (約 6.4 億円) 舗装工 約 1.6 億円 (約 1.6 億円)
事業費の変更理由	・用地費 補償対象の精査、費用詳細算定による増額。 ・工事費 擁壁設置に際して軟弱地盤が判明し地盤改良が追加となったこと、また、電線共同溝等の設置に際して地元協議により夜間施工となったことなどによる増額。	
維持管理費	約 500 万円/年	

2 事業の必要性等に関する視点

	計画・再評価時点 [H16, H22]	前回評価時点 H27	再々評価時点 R2	変動要因の分析
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	【現道の交通量】 枚方藤阪線 ・自動車 : 18,046 台/24h ・歩行者 : 1,488 人/12h ・自転車 : 1,619 台/12h (H17 交通センサス) 【沿道公共施設】 ・市立枚方市民病院 ・関西外国語大学	【現道の交通量】 枚方藤阪線 ・自動車 : 14,378 台/24h ・歩行者 : 3,759 人/12h ・自転車 : 1,407 台/12h (H22 交通センサス) 【沿道公共施設】 ・市立ひらかた病院 (H26 改称) ・関西外国語大学	【現道の交通量】 枚方藤阪線 ・自動車 : 14,201 台/24h ・歩行者 : 4,011 人/12h ・自転車 : 1,478 台/12h (H27 交通センサス) 【沿道公共施設】 ・市立ひらかた病院 ・関西外国語大学	・関西外国語大学の 学舎拡大・新学部 設置に伴う歩行者 自転車交通量の増 加
地元の 協力体制等	地元市から早期整備の要望がある。			
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	【効果項目】 ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 【分析結果】 ・B/C=2.32 B=53 億円 C=23 億円 【算出方法】 国土交通省「費用便益 分析マニュアル」(平 成 20 年 11 月)	【効果項目】 ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 【分析結果】 ・B/C=1.78 B=52.7 億円 C=29.6 億円 【算出方法】 国土交通省「費用便 益分析マニュアル」 (平成 20 年 11 月)	【効果項目】 ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 【分析結果】 ・B/C=1.30 B=53.5 億円 C=41.3 億円 【算出方法】 国土交通省「費用便 益分析マニュアル」 (平成 30 年 2 月)	・完成予定年度の延 期及び費用の増加 により、費用便益 比が低下

事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)	【安全・安心】 ・車道、歩道が分離構造となり、歩行者、自転車等の安全が確保される ・災害発生時の病院へのアクセス、避難路が確保される 【活力】 ・物流の効率化に寄与する ・地域間交流連携が強化される 【快適性】 ・十分な幅員が確保された歩道により、快適性が向上する 【受益者】 ・道路利用者、地元住民			
	計画・再評価時点 [H16, H22]	前回評価時点 H27	再々評価時点 R2	変動要因の分析
事業の進捗状況 <経過> ① 事業採択年度 ② 事業着工年度 ③ 完成予定年度	① 平成 17 年度 ② 平成 17 年度 ③ 平成 27 年度	① 平成 17 年度 ② 平成 17 年度 ③ 平成 30 年度	① 平成 17 年度 ② 平成 17 年度 ③ 令和 5 年度	・用地交渉に日数を要したため、事業期間を延伸
<進捗状況>	・全体 54% (13 億円/24 億円) ・用地 81% (13 億円/16 億円) ・工事 3% (0.2 億円/ 7 億円) ・調査費等 70% (0.7 億円/ 1 億円)	・全体 85% (23 億円/27 億円) ・用地 89% (16 億円/18 億円) ・工事 88% (7 億円/ 8 億円) ・調査費等 100% (1 億円/ 1 億円)	・全体 90% (27 億円/30 億円) ・用地 84% (16 億円/19 億円) ・工事 90% (9 億円/10 億円) ・調査費等 100% (1 億円/ 1 億円)	—
事業の必要性等に関する視点	・京阪枚方市駅へのアクセス道路として、自転車歩行者道の設置及び交差点改良を行うことで歩行者、自転車等の安全を確保するとともに、交通渋滞を緩和することを目的とする事業の必要性に変化はない。			

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年 9 月に、東端から約 0.3km 区間を供用開始。 平成 29 年 3 月に、西端から約 0.2km 区間を供用開始。 残る 0.1km 区間については、現在、用地取得に向けた交渉を進めており、その合意が得られれば、速やかに工事に着手する予定。まず北側の整備を行い、道路を切り替え、南側の整備を以て事業完成を見込む。
--------------	--

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	・本事業区間約 0.6km のうち約 0.5km は供用済み。残る約 0.1km の整備により、歩道がつながり交通安全機能が確保されるため、代替案立案の余地はない。
---------------------	--

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	・周辺は市街地が形成されており、本拡幅事業により自然環境に与える新たな影響は少ない。
前回評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	—
上位計画等	○大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3）
その他特記事項	—

6 評価結果

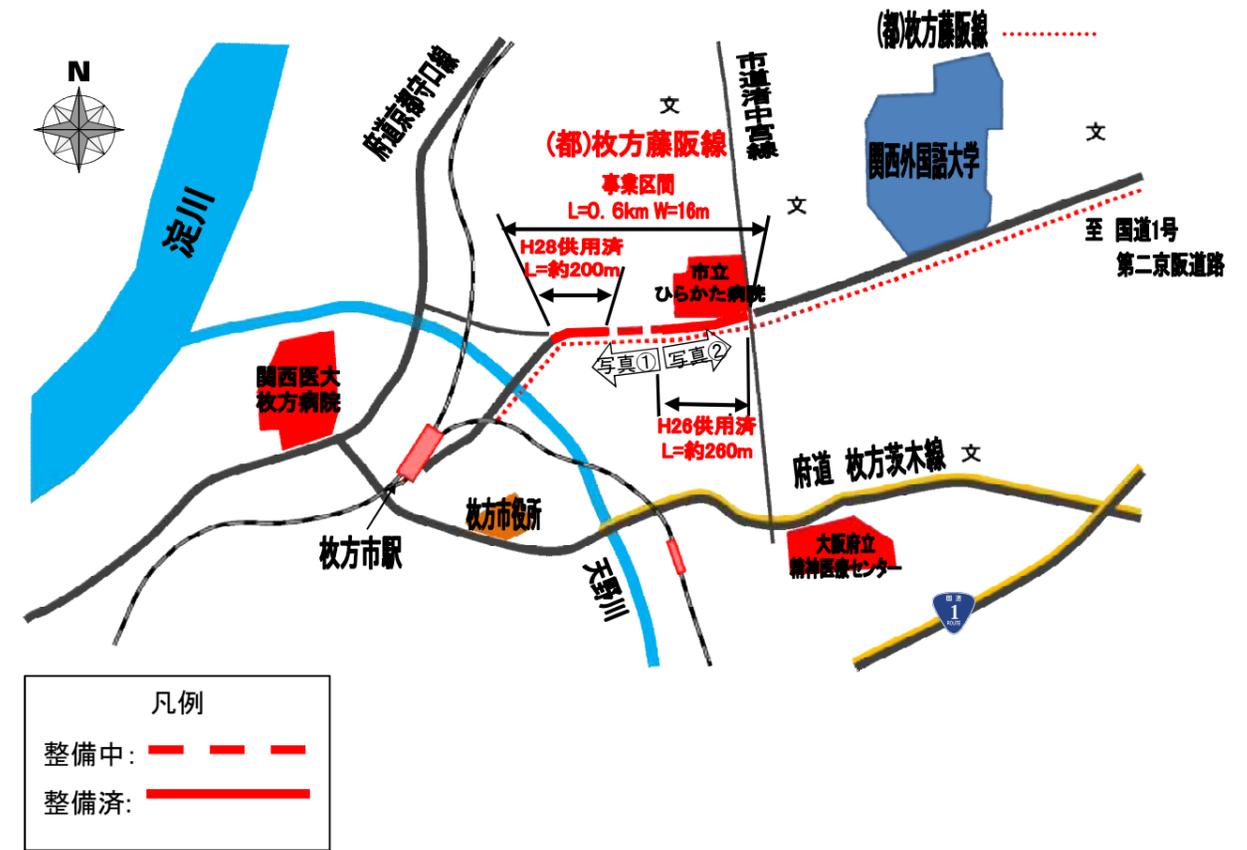
評価結果	<p>○事業継続 <判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地買収は 84%、工事は 90% が完了済みである。 ・本事業区間約 0.6km のうち、約 0.5km が完成し、残る 0.1km 区間については、現在、用地取得に向けた交渉を進めており、その合意が得られれば、速やかに工事に着手する予定。当該区間の完成により、歩道がつながり、交通安全機能が確保される。 <p>以上の理由により、事業を継続する。</p>
------	---

令和2年度 再々評価 (都市計画道路 枚方藤阪線 街路事業)

事業箇所図



平面図



現況写真

写真①



写真②



標準断面図

